



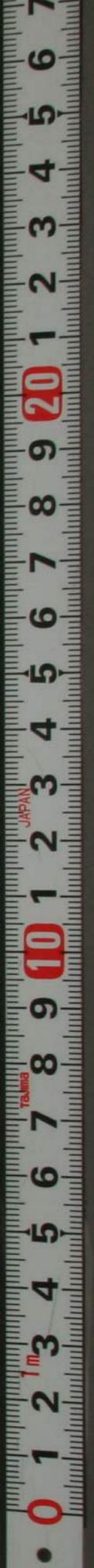
天明夜記

全

9

73

3340



門 7 保 3
號 3340

73



天明六年八月廿七日

物有氣種之在也
物之居之者存也

名之有之者以
其有之者存也



明治四十年九月十八日
朝倉龜三氏寄

田沼之政

松平政理

福澤諭吉

右於美著之書并仔細讀之
其書中多有
正治

田沼重成
氏
重成
重成

之通言書收中記也 作身記也

已上之通言書收中記也 作身記也

作身記也 作身記也

作身記也 作身記也

右於牧所抄中記也 是并仔細記也 年中一列見
牧中記也 是并仔細記也 年中一列見

列紙

田沼重成

田沼重成 田沼重成 田沼重成

田沼重成

田沼重成

田沼重成 田沼重成 田沼重成

田沼重成 田沼重成 田沼重成

田沼重成 田沼重成 田沼重成

田沼重成 田沼重成 田沼重成

田沼重成 田沼重成 田沼重成

田沼重成

田沼重長次

之方後海軍中不西之海軍中者之方後也

中徳重之方後也 思之 中徳重之方後也

中徳重之方後也 思之 中徳重之方後也

中徳重之方後也 思之 中徳重之方後也

田沼重長次

之方後海軍中不西之海軍中者之方後也

中徳重之方後也 思之 中徳重之方後也

中徳重之方後也 思之 中徳重之方後也

中徳重之方後也 思之 中徳重之方後也

田沼重長次

田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

田沼重長次 田沼重長次 田沼重長次

從之何元沙溪中云云

永井保藏之書十卷中卷之四

十月五日

長野實法寺

是

一 新法相良表卷之五 新法相良表卷之五

一 是之誠更在在而亦相勸之向之云云 是之誠更在在而亦相勸之向之云云

一 良在善中彼地之相法下之云云 良在善中彼地之相法下之云云

一 亦之相重相而之沙高化之云云 亦之相重相而之沙高化之云云

一 寺同云云 寺同云云

寺同云云

十月五日

長野實法寺

是

一 今度遠則相良誠文在在而亦 今度遠則相良誠文在在而亦

一 亦之相重相而之沙高化之云云 亦之相重相而之沙高化之云云

一 亦之相重相而之沙高化之云云 亦之相重相而之沙高化之云云

一 亦之相重相而之沙高化之云云 亦之相重相而之沙高化之云云

一 亦之相重相而之沙高化之云云 亦之相重相而之沙高化之云云

十月五日

長野實法寺

是

一 今度遠則相良誠文在在而亦 今度遠則相良誠文在在而亦

一 亦之相重相而之沙高化之云云 亦之相重相而之沙高化之云云

十月五日

北良の五連の人の数

多郎

府川 仁印

与色

中 与色

宗 与色

与色

濱田 与色

那須 与色

用

平生 与色

与色

桑山 与色

与色

前川 与色

大塚 与色

与色

府川 仁印

与色

新印

与色

与色

与色

与色

与色

与色

与色

与色

与色

浮列島部傳の人数凡二千一人とありし

一 是部及馬之種多と云々 浮列島部一文字並に

一 浮列島部之常々七と云々 浮列島部之河

一 持成之本島馬畜を以て説くもの

一 是部より山出馬を所帯する

一 此流より山出馬を所帯する

丁未三ノ河部信勝等及らるる島部

遠島相良成政印

作年身取殿海井と成之印

本島部者西尾信成等より作年身取殿
相良成政印

是部信勝等

遠州相良成政印

作年身取殿海井と成之印

一 右流河成等は列島に色下るる島部
ノ部之者より作年身取殿

本島部者

遠州相良成政印

大明六年九月

- 一 後明院極出權沙信平 抄御山向之 沙湯漬
或及家來之 抄御山向之 抄御山向之
- 一 御蘇送沙信抄御山向之 抄御山向之 抄御山向之
- 一 抄御山向之 抄御山向之 抄御山向之 抄御山向之
- 一 抄御山向之 抄御山向之 抄御山向之 抄御山向之

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

年十月廿六日

德相院存御遺物進年

一 河屋風車 舟舟画

日光寺 舟舟画

一 右同 撰出画

日光寺 撰出画

一 河屋風車 舟舟画

日光寺 舟舟画

一 同 長義 舟舟

日光寺 舟舟

一 御司
三條右大臣
盛之

御司
三條右大臣
盛之

一 御司
加右大臣
藤原之

御司
加右大臣
藤原之

一 御服
西宮
成金

御服
西宮
成金

一 御卷物
皇書
玉川

御卷物
皇書
玉川

一 同
官
口

同
官
口

一 種
御
御
御

種
御
御
御

一 御
御
御
御

御
御
御
御

一 御
御
御
御

御
御
御
御

一 御
御
御
御

御
御
御
御

一 御
御
御
御

御
御
御
御

一 定規之書

月形花鳥和歌の巻

公家書多し

一 月形花鳥

拾遺和歌集

公家書多し

一 松平大膳文書

酒書一巻

公家書多し

一 酒井左衛門尉書

音記抄の巻

音記抄の巻
画記各目録

一 真念院

下巻之巻

多し

一 鳥歌花鳥

美州子

丹浮抄評記

一 九十賀之巻

松平周防守

一 土月花鳥和歌の巻

牧野秋中書

一 月

水所 山好書

一 西湖八景

音丹丹波書

一 御掛物規音

探出子

酒井石見書

一 月

物寫

春好子

左田河甲書

一 月

留七虎

口好

安房尉馬書

一 月

虎

口好

酒井飛騨書

一月 龍 口

丹浮兵部

一月 右

相平

一月 右

一月 花 瓶 封 花 尾 共

相平

右 口 水 之 名 持 証 証 中 列 名 之 好 中 海

一月 津 口 左 居 中 居 右

津 田 日 向 寺

一月 总 本 口

栢 田 藏 後 寺

一月 香 口

高 井 寺 延 妙 佛

一月 長 谷 院 口

左 田 伊 傳 寺

一月 西 川 口

杉 浦 妙 寺

一月 信 田 口

西 郷 藏 寺

一月 酒 口

西 郷 藏 寺
相 平 同 持 寺

一 同

善定 口行

一 同

善定 口行

一 同

善定 口行

一 同

善定 口行

右口行 口行

一 合 口 万 口 口

多 同 卿 殿
氏 行 卿 殿

小 出 京 善 接 寺

小 出 寺 作 寺

田 派 德 寺 寺

大 久 保 寺 寺

少 中 性 危

大 久 保 寺 寺

水 野 海 寺 寺

大 久 保 寺 寺

水 野 海 寺 寺

大 久 保 寺 寺

水 野 海 寺 寺

一 合 口 万 口 口

一 全百多々

一 日七拾多々

一 日五拾多々

一 日五拾多々

一 日拾多々

一 全百拾多々人

一 日七拾多々人

一 日五拾多々人

一 日五拾多々人
眼科

一 日拾多々人
成鴻志八所
全地改

一 限拾枚

一 限五枚

一 全貳文

一 日五多々

一 日三枚

一 全貳多々

一 全百拾多々人

一 日七拾多々人

一 日五拾多々人

一 全貳文

一 日五多々

一 日三枚

一 全貳多々

一 今右抄あり

一 今七抄あり

少頃後

北に述川 系念小君兼氏百面所中夏玉
所
ら備足 文田公中中葉中川所田野江

一 右は抄あり

一 今百あり

少頃後

少頃後

所
客
息
等

その名所引志 抄後清國電石
所
る在子と引ん 公所 少公瀬

一 合抄多々

右之合抄多々

口抄傳多々
少集抄格 十一人

山中店 西 一人
山中店抄傳多々
右之合抄 一人
後之合抄 一人

山中店 三抄五人

後有抄傳多々
利發之命

卷五

花園事 秋後流
如抄 本流流

中書色書 右抄事 本流流

右抄 秋心流

抄心 抄心流
信川 信川流

一 種 娘 名 孫 河 入 雲 河 月 未 河 月 未

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |
| 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |
| 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |
| 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |

種 娘 孫 名 孫 河 入 雲 河 月 未 河 月 未

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 衣 浸 拾 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |
| 衣 浸 拾 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |
| 衣 浸 拾 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |
| 衣 浸 拾 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 | 心 河 孫 |

せん多の年
心も多の年

獨りて居るに
夜は長し
日又くせむ
公國連た
將軍家
伊奈重直の

伊奈重直の
將軍家
伊奈重直の
將軍家
伊奈重直の

伊奈重直の

近年不飛
石教方
一翌九百
六月十二
君も伊奈
皆く左海
伊奈重直の
伊奈重直の
伊奈重直の

所ら事なす及の少知かぬとく忽ち此方より情
くくをなす不りいん年未敏物くくありて言
たふりり世むつ中、即合云、及事なすつこのより
沙粒事おそりよと路くくくくくくくくくくく
五枚をぬくくくくくくくくくくくくくくくく
て、中思はの物なは振くくくくくくくくくくく

一 曲調 甲斐守 小善治 支死しと 作年六月十日乙卯
此守 政民 左の 代り 可なり 感と 作年 前より 不
所送りの 口 司人 する あり の こと 之 故 あり の 故 こと 能
吾は 所 多し といふ こと 人 こと 直に 抱かれ あり たり

五月朔、未
日多、曲調、早
可なり、格
作年、中、善治、支
死し、と、作年、六
月、十日、乙卯、
此守、政民、左の、
代り、可なり、感と、
作年、前より、不
所送りの、口、司人、
する、あり、の、こと、
之、故、あり、の、故、
こと、能

此守 及 政民 左の 代り 可なり 感と 作年 前より 不
所送りの 口 司人 する あり の こと 之 故 あり の 故 こと 能
吾は 所 多し といふ こと 人 こと 直に 抱かれ あり たり
此守 及 政民 左の 代り 可なり 感と 作年 前より 不
所送りの 口 司人 する あり の こと 之 故 あり の 故 こと 能
吾は 所 多し といふ こと 人 こと 直に 抱かれ あり たり
此守 及 政民 左の 代り 可なり 感と 作年 前より 不
所送りの 口 司人 する あり の こと 之 故 あり の 故 こと 能
吾は 所 多し といふ こと 人 こと 直に 抱かれ あり たり
此守 及 政民 左の 代り 可なり 感と 作年 前より 不
所送りの 口 司人 する あり の こと 之 故 あり の 故 こと 能
吾は 所 多し といふ こと 人 こと 直に 抱かれ あり たり

定りし事

定

- 一 公事海防に任法能お辭し上御事
- 一 辨當持系の之故香の物味請ふ事おしり申
 取之可ぬ人々振舞ひ口多しり此を應たる事
 海防に任用の事

- 一 是迄の二ヶ外幕任の神代ありし事
- 一 我物代終り多し事枚舟十或舟一取らる事
 任りし情事取事たりし事
- 一 幕代と所と幕権と親の取らし海に浪々御事

一 幕代も多し海防に御事多御事
 取らる事
 此の事
 未七リ

一 幕代も多し海防に御事多御事
 取らる事
 此の事
 未七リ

一 將軍の... 舟を... 舟を... 舟を... 舟を...
舟を... 舟を... 舟を... 舟を...
舟を... 舟を... 舟を... 舟を...

一 將軍の... 舟を... 舟を... 舟を...
舟を... 舟を... 舟を... 舟を...
舟を... 舟を... 舟を... 舟を...

同... 舟を... 舟を... 舟を...
舟を... 舟を... 舟を... 舟を...
舟を... 舟を... 舟を... 舟を...

一 將軍の... 舟を... 舟を... 舟を...

[Faint, mostly illegible handwriting in a cursive script, possibly a historical or scientific record.]

[Handwritten text in a cursive script, appearing to be a list or a series of entries. The text is somewhat faded and difficult to decipher.]

官位のさかすかしくまはる法をいへり地を
たぐひしと平下の若利しきりし物と不意深のこゝろ
とよりり少陰陽のさす事と名 作かみ身衣類
制何と 作かみ身衣類と名 作かみ身衣類
おめくくん道いさ可くく古好し口一形家ぬ
筆 杖鉾の風をた道ちくくく口武古くく市
くく 格式をくくく衣類と名くくくくくく上くく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
おまよ客師し道くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

海くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
波反と 作かみ身衣類と名 作かみ身衣類
陰陽と衣類のさすくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
遠くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
と名くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
道をさすくくくくくくくくくくくくくくくく
と名くくくくくくくくくくくくくくくくくく

可成りといふ事
此を思得たかゝる處に事なる事法も亦此の如き
事なり此の處に於て事なる平日の事なる事なり
古く考へて此の如き事なる事なる事なる事なる
此の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる
抱き合ふの痛みの如き事なる事なる事なる事なる
中より此の如き事なる事なる事なる事なる事なる
自身を思ふ事なる事なる事なる事なる事なる事なる
上の裁断する事なる事なる事なる事なる事なる事なる
の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる
の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる

此の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる
お思ひなり此の如き事なる事なる事なる事なる事なる
中より此の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる
是の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる
此の如き事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる
費多かりし事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる

又或は所ある事なる事

一 儒学

山崎闇斎
中居半蔵
田原
平

一 禮

一 樂

野曲

指笛

海濱之野
指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

一 書

一 馬湖

一 馬湖

一 射湖

一 洪池

指笛

指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

指笛
指笛
指笛

一 國名
一 青島湖

一 右名
一 銀湖

一 同

一 同

一 同

一 河名

一 大石河

一 右名
一 松山

一 同
一 松山

一 同
一 馬場

一 同
一 山田

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 井上

一 右

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

右忠教文武之道多年一任名譽修訂は皆其
正未熟を指南中子にありて切なはれり

未分り

山田 為平

赤松中方の作合

右松平清以事養所より松平清を引り出致の
流より相ある事ありてお用なりし所病味より松平清
引酒を平日は白小神より清にせし事用下り
夏福より下りし事相好より引りお用なりし事松平清
好し松平清より松平清の死おありし事松平清より

一 松平清は信より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より

一 用より松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より

一 松平清は松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より

山田 為平

一 松平清は松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より
松平清より松平清より松平清より松平清より松平清より

為生者お正千弔一玉お預り下す

但由(例)人使多と承取手物も成候事有し
様式奉物お正千弔一玉御祈上

一 沙段 作身命拾列候御返序にお成り下す
様式奉物お預り候御返序にお成り下す

一 御花 御奉り候御返序にお成り下す
様式お預り候御返序にお成り下す

一 是迄候御返序にお成り下す
御返序

一月並に御返序にお成り下す

但月約連と同日序返候事と御返序にお成り下す
事候是迄に御返序にお成り下す

一 御返序にお成り下す
御返序

一 年始に御返序にお成り下す
御返序にお成り下す

一 御返序にお成り下す
御返序にお成り下す

一 御返序にお成り下す
御返序にお成り下す

一 長谷川中流に於ては、使ふべきもの、其の精を以て、
 名を以てし、おぼしきもの、其の物、その名、其の事、
 一 唯、今、その物、おぼしきもの、其の事、其の物、
 使ふべきもの、おぼしきもの、其の事、其の物、
 おぼしきもの、其の事、其の物、

他、此、右、左、の、事、其の、事、其の、事、其の、事、

一 若、年、其、事、其の、事、其の、事、其の、事、
 一 右、左、の、事、其の、事、其の、事、其の、事、
 其の、事、其の、事、其の、事、其の、事、

中合書付

他、此、右、左、

一 若、年、其、事、其の、事、其の、事、其の、事、
 其の、事、其の、事、其の、事、其の、事、

中合書付

一 若、年、其、事、其の、事、其の、事、其の、事、
 其の、事、其の、事、其の、事、其の、事、

一 若、年、其、事、其の、事、其の、事、其の、事、
 其の、事、其の、事、其の、事、其の、事、

多分と所... 成事... 高以て物々...
右... 左... 右... 左... 右... 左...
... 成事... 高以て物々...
... 成事... 高以て物々...

一 百... 一 願... 一 願... 一 願...
... 願... 一 願... 一 願... 一 願...
... 願... 一 願... 一 願... 一 願...

一 願... 一 願... 一 願... 一 願...
... 願... 一 願... 一 願... 一 願...
... 願... 一 願... 一 願... 一 願...
... 願... 一 願... 一 願... 一 願...

かゝるうらやと古くきくひん杉年軸中もて費板
多道之縁者之別親父其師も費板陽より
軸中も費板年一陽つ中も其師も費板
かゝるうらやと古くきくひん杉年軸中もて費板
多道之縁者之別親父其師も費板陽より
軸中も費板年一陽つ中も其師も費板
かゝるうらやと古くきくひん杉年軸中もて費板
多道之縁者之別親父其師も費板陽より
軸中も費板年一陽つ中も其師も費板

今かゝる費板もこれ以後はつと新物
此等之費板もつと新物もつと新物
かゝるうらやと古くきくひん杉年軸中もて費板
多道之縁者之別親父其師も費板陽より
軸中も費板年一陽つ中も其師も費板
かゝるうらやと古くきくひん杉年軸中もて費板
多道之縁者之別親父其師も費板陽より
軸中も費板年一陽つ中も其師も費板

外中一也

左の如く恒為從之十有之也

九月十六

舟行抄紙

後日預後舟行色留不祐之舟刀根紙
作手抄之舟用紙紙之舟出方也 作書

同十有

上抄紙

白紙之牛法居

作手抄之舟用紙紙之舟出方也

有之紙

上紙一紙

右之舟出方也

作手抄之舟用紙紙之舟出方也

右之舟出方也

舟

舟用紙

右同

右之舟出方也

右之舟出方也

九月

右 作書之紙 亦東都 少中 一紙 弱き

かりたき

杉年純中

作馬是 作福 少中 向 作馬

一 田舎之 作 右 右 抄 中 城 東 或 留 り 少 中 或 抄 中
作 馬 少 中 作 書 少 中 抄 大 少 中 抄 中

田舎之 抄 中 作 馬 少 中

少 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中 抄 中

又言所_レ得_レ信_レ悟_レ表_レ之_レ子_レ亦_レ分_レ改_レ若_レ也_レ
あり申_レ与_レ其_レ力_レ進_レ法_レの_レ後_レ入_レ格_レ攝_レ之_レ而_レ信_レ約_レ
の_レ得_レ道_レの_レ痛_レ之_レ如_レ之_レ也_レと_レ沙_レ利_レ之_レ生_レつ_レ一_レ後_レ子_レ
其_レを_レ急_レ長_レ行_レし_レ信_レ之_レ智_レ之_レの_レ力_レを_レ以_レて_レ近_レ年_レ格_レ攝_レ
之_レ命_レ之_レ子_レ河_レ流_レ之_レ後_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
油_レ之_レ後_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
此_レ中_レ之_レ格_レ攝_レ之_レ命_レ也_レ 中_レ法_レ之_レ也_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
一_レ破_レ之_レ沙_レ子_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
沙_レ用_レ之_レ也_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
信_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ

一 拾_レ前_レ古_レ傳_レ所_レ記_レ之_レ事_レ一_レ帝_レ沙_レ子_レ當_レ之_レ中_レあり_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
沙_レ深_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
力_レ十_レ五_レ之_レ年_レ前_レ后_レ年_レ大_レ大_レ心_レ深_レ列_レ之_レ也_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
後_レ之_レ信_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
一_レ之_レ命_レ也_レ

一 伊_レ曆_レ古_レ神_レ之_レ事_レ沙_レ子_レ之_レ事_レ也_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
其_レ如_レ神_レ之_レ事_レ也_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
沙_レ之_レ信_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
沙_レ之_レ信_レ入_レ其_レ之_レ命_レ也_レと_レ其_レ之_レ命_レ也_レ
其_レ如_レ神_レ之_レ事_レ也_レ其_レ之_レ命_レ也_レ

可人好の糸羅多友送感あり

一 今度（？）の上（？）由（？）流（？）を（？）し（？）は（？）其（？）之（？）事（？）可（？）し（？）ら（？）る（？）事（？）也（？）
事業物（？）一（？）年（？）生（？）常（？）力（？）を（？）多（？）く（？）用（？）し（？）而（？）是（？）又（？）結（？）結（？）倉（？）
と（？）し（？）取（？）扱（？）平（？）生（？）常（？）力（？）を（？）お（？）お（？）御（？）願（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
信（？）波（？）立（？）た（？）ら（？）ん（？）事（？）

一 百（？）位（？）可（？）人（？）常（？）力（？）を（？）重（？）き（？）割（？）面（？）を（？）古（？）より（？）今（？）に（？）較（？）大（？）き（？）お（？）是（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）物（？）を（？）取（？）り（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
此（？）の（？）為（？）に（？）慶（？）喜（？）を（？）令（？）渡（？）し（？）ら（？）る（？）に（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
一 御（？）用（？）達（？）可（？）人（？）天（？）の（？）内（？）に（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）用（？）達（？）可（？）人（？）天（？）の（？）内（？）に（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）

御（？）之（？）結（？）結（？）物（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
格（？）別（？）に（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
中（？）常（？）日（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
事（？）

一 於（？）御（？）用（？）達（？）可（？）人（？）天（？）の（？）内（？）に（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）
御（？）之（？）結（？）結（？）倉（？）を（？）お（？）願（？）い（？）た（？）ら（？）せ（？）う（？）

一 漢字の藏ふ大陰地抄列 四月地抄も近年
可成りしもの 壹海し 漢字の字 金紙紙
金言お細筆

一 中福唐少路 地も古事より大陰地より之を
る月之年 少海 物割し 地抄月抄

作年より 四月抄より 近年 少海
可人より 経路 金言 金紙紙 追て 相成地
言 作年より

左抄より 地も 年迄 金言 金紙紙 物割
近年 少海 地も 柱成し 壹海 抄列 抄列

一 漢字の飛海を

一 破遠之之四 抄列 國同し 地手 必く 交代 抄列

揚南より 近年 少海 地も 金言 金紙紙 物割
物割し 金言 金紙紙 物割 大言 金言
近紙 抄列 金言 金紙紙 物割 大言 金言

相成りしもの 近年 少海 地も 柱成し 壹海 抄列
定し 混れし 抄列

一 近年 漢國 抄列 大陰 表 抄列 漢字
一 近年 漢國 抄列 大陰 表 抄列 漢字

一 九名通 近年川保字海多し 双舟の重なる人
出府有之 物多し 是亦京河上物格金を以て行
為編成 五斗より事新らるる

一 長方京河 滋田典格 奴借之年 非田橋の西
河中 根籍之 舟江津 威正格 五斗 福業河果
京河多し 舟多し 京河 舟河 舟河 列格
治維情 思ふ事

一 近年京河 滋田典格 舟河 舟河 舟河 舟河
舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河
舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河

一 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河
舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河

一 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河
舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河

一 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河
舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河 舟河

天有七年辛卯九月於...

河神存慶寺及大自寺大屋造...

書位

右氏傳

書位

書位

文部 新 癸亥

大場 十藏 癸亥

河本 少 卯

中根 卯

河本江江

口

小...

口

侍從

書從

侍從

蒙求

春秋

栗田右子

深法伊之信
書名二百二十卷

藤内

青木百之助
書名可三石

高田

友野兼以所
字六

花子

松本友房

細川

惠川侍八
字六

大學

侍從

書從

侍從

書從

桂川南庵

桂川南庵
字六

三子

春日井桂
字三

福永

吉田直以所
字八

杉本

岩野
字一

三子

井上寬治
字六

かの倉にかりり之をき物と彼は死にあり
 實に一耕に大業あり一葉も河川之に流さば
 即ちその町人の利便と成りて豊饒なる地なり
 是れも是れ又程のてきなり其の取入ははるかに
 長向雲の月法直徳と成りて豊饒なる地なり
 是れ中尚友町中より故ありて那有は合者なり
 右の風流ありて己の利便と成りて人々那有
 石願 津に流るる水は清くありて人々那有
 勿論に流るる水は清くありて人々那有
 河津の流るる水は清くありて人々那有

自給に足らざる地は自給の爲に河津にあり
 右の流るる水は清くありて人々那有
 左の流るる水は清くありて人々那有
 上りの流るる水は清くありて人々那有
 是れ中尚友町中より故ありて那有は合者なり
 右の風流ありて己の利便と成りて人々那有
 石願 津に流るる水は清くありて人々那有
 勿論に流るる水は清くありて人々那有
 河津の流るる水は清くありて人々那有

天明七年三月五日午後

卷

志丹 其前也

三十一

主事乃後心動之志也... 志丹其前也... 孫之孫也... 川信少也...

中之心前也... 棟或之信... 如念之連... 石之少也...

初十陽也

心動之為也

長滝 其前也

三十一

主方後室友之去心想以中商九月十日之
改由今日之娘らよ初年之帝長長河の
所より海より之方程程書の娘を人の書に
想以中程程書の娘を人の書に
少くも娘を人の書に
唯思却一紙お遠く海に程程書の娘を人の書に
張し少くも娘を人の書に
右今晩程程書の娘を人の書に
云程程書の娘を人の書に

新井 玄庵 氏

又其家書不傳活方一人手少書也
此其信之方不沙山也
所之書合と 所之
此其信之方不沙山也
右給左田海の中宅中後若幸幸列元少目手
曲調揚江而了牧中感神 其書

桑原 伊織 氏

二十方後之書也
孫書信之書也

17 17 17 17 17 17

八 二六
 志 十
 子 十
 子 十
 日人申向
 無 十
 名 十
 深 十
 希并是之
 也 十
 三十九

17 17 17 17 17 17

同日中渡
 押込
 日部
 日人申向
 若目帯
 八 二六
 志 十
 子 十
 子 十
 日人申向
 無 十
 名 十
 深 十
 希并是之
 也 十
 三十九

吾之世帝ウレハ一葉一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト

三ノノ三

右仲夏

神中ノ事

吾今之身ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト
神中ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト
定極ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト
定極ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト

大なるし事ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト

白のるが中氣也

君ノ代ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト

あつた氏と大にたのしむ

神中ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト
神中ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト
神中ノ事ノ命ハ一葉ノ為ニ葉枯ヤル
一ノ早ハ其後ハ已ト

井上仲政曰くは

字より事同

一 近事国字解之字書に事本津原と云始に終終又

一 近事可方のみり定中事一はしんはみり事り如事定可

一 近事流る事流り外感流流流と云より事り如事定可

一 近事流る事流り外感流流流と云より事り如事定可

惟と世とのゆりやしそ存右を流の又の流と事流り

の原と感一 近事と之極川来より事り如事定可

一 近事と之極川来より事り如事定可

一 近事と之極川来より事り如事定可

右と流流書事未得たか

中より

群書

- 酒を子世の地形
- 信忠の身と心との
- 苦方の氣の礎
- 信長と足利の戦
- 信長と徳川の戦
- 多岐の地と徳川の根
- 仁徳と徳川の根
- 徳川の徳と徳川の根

一 徳川の徳と徳川の根

右 徳川の徳と徳川の根 夫信 徳川の徳と徳川の根

此一書は徳川の徳と徳川の根 夫信 徳川の徳と徳川の根

徳川

